

提案ブック「〇〇たてやま」をつくる活動を通して、
読み手に伝わりやすい文章構成について考えさせる。

第5学年2組 国語科学習指導案

指導者 田中 光葉

1. 単元名 提案ブック「〇〇たてやま」
2. 学習材「提案文を書こう」(教育出版 ひろがる言葉 5年国語下)
3. 単元について

(1) 本単元でつきたい力

本単元では、主に、小学校学習指導要領・国語〔第5学年及び第6学年〕の「知識及び技能」・「B 書くこと」における以下の能力を身に付けさせることをねらいとしている。

知識及び技能

内容

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

カ 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。

B 書くこと

内容

ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

カ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。

言語活動例

ア 事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。

本単元では、提案ブックを作成し、市役所に届ける活動を通して、自分の事実と意見を結びつけてわかりやすく表現したり、自分の考えを広げたりすることをねらいとしている。

(2) 単元の目標

【知識及び技能】

○話題を決め、自分の考えが伝わるように、文章全体の構成や伝えたい情報を整理して「〇〇たてやま」を書くことができる。(1 (1) カ)・・・㊦

【思考力、判断力、表現力等】

○事実と意見とを区別して書いたり、自分の考えが伝わるように文章の構成や表現の仕方を工夫したりすることができる。(2 B (1) ウ)・・・㊧

○ライティング・カンファレンスを通して提案文を読み合い、それぞれ感じたことを共有することで自分の考えを広げることができる。(2 B (1) カ)・・・㊨

【学びに向かう力、人間性等】

○読み手に伝わりやすい文章校正について考え、学習の見通しをもって「〇〇たてやま」を書こうとしている。・・・㊩

(3) 指導観

〔見いだす〕

□本単元（本時等）の目標（めあて・ねらい）を児童に明示する。

①主体的に学習する態度を引き出すために、モデルを提示することで単元の目標を知らせる。

本単元の導入では、単元を通した見通しを教師作成の提案ブックのモデル、「〇〇たてやま」を提示する。提案ブックでは、館山市をよりよくするための提案を語る。提案ブックには、その提案をしようと思った、事実の部分と事実から考えられた意見があることを明確にしておく。最終的には完成した提案ブックを館山市役所に持っていき、今後の市政の参考にしてもらうことを伝える。自分たちの提案が現実になるかもしれないことから子どもが「私もつくりたい」など学習意欲の向上につなげていくことや、相手意識をもって「〇〇たてやま」を作成させる。また、子どもと学習計画を立て、単元を通して確認することができるよう、教室に掲示していく。導入時に、教師モデルを参考にしながら子どもたちと読み進め、学習内容をイメージさせることで、どんなことを書くのかを意識させ、主体的な学びにつなげていきたい。

〔自分で取り組む〕

□児童が「見方・考え方」を働かせながら課題に取り組むことができるように、取り組む時の視点や思考の進め方を指導する。

②自分の考えを形成し、表現することができるようにするために、児童と一緒にモデルを分析し、掲示する。

第1時で教師が作成したモデルを配付する。教師は拡大印刷をしたモデルを黒板に提示し、子どもたちと一緒にモデルにある提案文にはどんなことが書かれているのか、分析するようにする。提案文は「話題提示」「提案のきっかけとその理由」「提案内容とその理由」「今後の願い」の4構成でモデルを作成する。そうした教師の作成したモデルに出合わせることで、子どもたちが提案文を書く際の手がかりとしたい。また、子どもが提案文を書き始める際には、わかりやすく表現するための文章構成を再度確認し、参考にできるようにする。

□児童が自分の考えを形成したり、思いや考えを基に創造したりする時間を確保する。

③子どもたちの思考のスタイルに合わせ、シートを準備し、選択させ、「〇〇たてやま」を作成する。

一人一人の子どもたちの能力や思考にアプローチすることができるように、子どもが作成しやすいと感じるシートを選択させることで、学習の個別化をはかり、「〇〇たてやま」を作成する。子どもたちの中にはタブレットを使用し、書き上げたいと感じる子もいるだろう。そこで、3つのシート（PowerPoint、SKYMENUの発表ノート、手書きのシート）を準備する。自分の能力に合わせ、シートを選択させることで、どの子も本単元のねらいにせまることができるようにしたい。

〔広げ深める〕

□児童同士で作品を交流する場面を設定する。

④提案ブック「〇〇たてやま」を互いに読み合い、自分の思いや考えを表現することで考えを広める。

「〇〇たてやま」が完成したら、ライティング・カンファレンスの手法を用い、意見や感想を交流する。相手から質問されたことに答えることで、自分の作品を見つめ直せるようにする。それを3回くり返すことで、自分の考えをより明確に、より豊かにするようにしたい。また、友達と作品を読み合うことで、自分だけでは気づけなかった表現の仕方を共有し、言葉の特徴や特色についての理解をより深めたい。

〔まとめあげる〕

□児童が板書やノート、作品等を通して思考の過程を振り返り、学んだことをまとめる場面を設定する。

⑤授業の最後に国語日記を書かせたり、単元の最後に3観点で学習について振り返ったりする。

国語日記（わかったことや学習の中で工夫した点）を単元中に随時書かせるようにする。また単元の最後には3つの観点（①「〇〇たてやま」をつくってどんなことを思いましたか。②自分の提案を

表現する活動はどうだったか。③この学習を通してできるようになったことは何ですか。)で自分のことを振り返られるようにする。そうすることで自分の活動を客観的に振り返り、自己肯定感を高めるとともにメタ認知能力を育成していきたい。

4. 全体指導計画 (9時間扱い)

次	時	主な学習活動	○教師の支援 ☆評価 (方法)
第一次	1	教師モデル「〇〇たてやま」に出会い、単元のゴールを知り、学習の見通しをもつ。 ・学習計画を立てる。 ・教師モデルを分析し、どのようなことが書かれているかを考える。	○モデルを提示し、本単元のゴールを伝える。 ○教師モデルには、どのようなことが書かれているのか子どもとの対話を通して考えさせる。 ☆単元のゴールと見通しをもち、意欲的に取り組もうとしている。(㊦発言・日記)
第二次	2 3	提案したい内容について調べる。 ・調べたことを構成メモにまとめ、提案文に書く内容を考える。	○提案したい内容に迷ってしまう子どもには館山にできれば嬉しい施設を聞き取り調べさせる。 ☆自分の考えが伝わるような「提案文」となるように、文章全体の構成や書くことを考えている。(㊧ワークシート・日記)
	4 (構) 5 6 7	「〇〇たてやま」をつくる。 ・A4紙を半分にしてブックを作成する。ブックの中の部分には「調べた事実」、裏表紙には「自分の意見」を書いていく。 ・提案文の文章構成を考え、わかりやすい提案文にするにはどうすればよいか考える。 ・手書きで書くか、PowerPointで作成するか、発表ノートで作成するか選ぶ。	○手書きを選んだ中で、必要な子どもが使えるように罫線、もしくはマス目の入った下敷きを用意する。 ○どの作成方法でも活動することができるようにシートを準備しておき、自分が使うものを選ばせる。 ○伝わりやすい表現の仕方を教科書や教師モデルの提案文と比較させる。 ○自力で書くことが難しい児童には、教師モデルを再度見せたり、教師と会話をしたりしながら考えを整理していく。 ☆事実と意見とを区別して書いたり、自分の考えが伝わるように書き方を工夫したりしている。(㊨〇〇たてやま・日記)
	8	友達と作品を読み合い考えを交流する。 ・作品を交流して自身の作品を見つめ直す。 ① 出来栄は何点? ② 〇〇たてやまにした理由は? ③ 伝わりやすくするために努力したことって何? ④ その努力はうまくいってる? ⑤ あなたの提案通りに館山市が変わったらどんな良いことがあるそう? ⑥ 作っていて何か悩んだことはある? ～フリートーク～	○カンファレンスの質問事項に沿って、質問させ、質問されたことに答えることで自分の作品と向き合い、自分の考えを明確に、より豊かにさせる。 ☆友達と提案文を読み合い、それぞれ感じたことを共有することで自分の考えを広げている。(㊩発言・日記)
第三次	9	単元の振り返りをする。 ・以下の学習の振り返りを行う。 ①「〇〇たてやま」をつくってどんなことを思いましたか。 ②自分の提案を表現する活動はどうだったか。 ③この学習を通してできるようになったことは何ですか。	○3観点で振り返らせることで、達成感や成熟感を味わわせ、自分の成長に気づかせる。 ☆単元全体の学習について振り返ろうとしている。(㊪ノート・発言)

5. 本時の指導（4／9）

(1) 目標 自分の考えが伝わるような提案文となるように、文章全体の構成を考え、事実と意見とを区別して書いたり、自分の考えが伝わるように文章の構成や表現の仕方を工夫したりすることができる。

【思考力・判断力・表現力】B（1）ウ）

(2) 展開

時配	学習活動と内容 ◎教師の発問・子どもの反応	○教師の支援 ☆評価（方法）
2	1. 前時までの学習を振り返り、本時の学習問題を確認する。 館山市をよりよくするための「〇〇たてやま」をつくっていこう。	○迅速に学習問題について確認できるように学習計画を基に学習問題に導く。 ○提案文の分析したものを掲示しておく。
7	2. わかりやすい提案文にするために、どのようなことが書いてあればより良いのか考える。 ・いきなり提案することを書くのではなく、話題の設定があるといい。 ・提案のきっかけや理由があるとわかりやすい。 ・今後どうなってほしいとか願いが書いてあるといいかも。	○子どもたちが詰まってしまった時は、教師と一緒に分析したモデルや教科書の提案文例を見させ、共通点を探らせる。
5	3. 「〇〇たてやま」をつくるために必要なものを確認する。 ◇作成する方法 ①PowerPointで書く。 } から自分で選ぶ。 ②発表ノートで書く。 } ③手書きで書く。 } ◇手書きを選んだ場合は、罫線もしくはマス目の入った下敷きをしてもよい。	○作成する方法①PowerPoint②ノートに書く③手書きの3点から選ぶことを伝える。 ○罫線もしくはマス目の入った下敷きを用意し、それらを使ってもよいことを伝える。 ○3つの方法から、なかなか決めることのできない子には手書きとタイピングで得意な方を考えさせ、決めさせる。
2 3	4. 各自で「〇〇たてやま」をつくる。	○個人で学習をすすめる際に困らないように、分析した教師モデルを掲示しておく。 ○分析した教師モデルを、児童の手元で見ることができるよう、Teamsに配付しておく。 ○伝わりやすい表現の仕方を教科書や教師モデルの提案文と比較させる。 ○手が止まっている子には、教師モデルを見返すことや、対話を通して書くことを想起させる。
5	5. 国語日記を書く。	○わかったことや工夫した点を書くように伝える。 ☆事実と意見とを区別して書いたり、自分の考えが伝わるように書き方を工夫したりすることができる。
3	6. 次時の確認をする。	(思)〇〇たてやま・日記

